国勢調査からみた関市

◆人口

1980年から2005年まで関市（※1）の人口は増加しており、2005年には92,597人を記録した。しかし、2005年以降は減少の一途をたどっており、2020年には85,283人となった。また増加率については、1980年～1985年が6.16％であったが、2015年～2020年には-4.34％まで低下した。

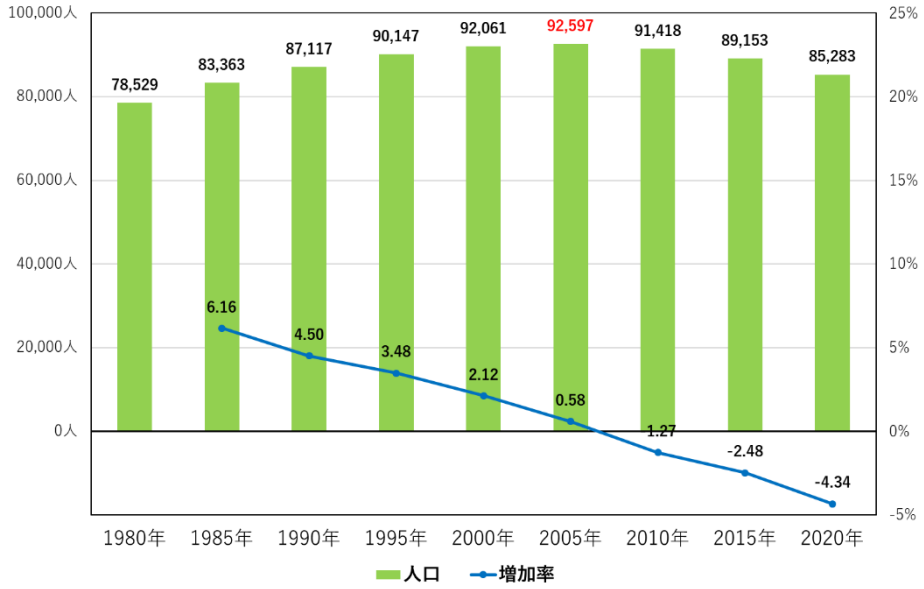

図1．関市における人口と増加率

関市の地域ごとに見てみると、多くの地域で人口が減少しており、その増加率も大きく低下した。特に板取、武儀、上之保地域では、1980年～1985年の増加率がおよそ-1％～-2％であったのに対し、2015年～2020年の増加率はどの地域も-10％を下回り、人口減少が加速している。

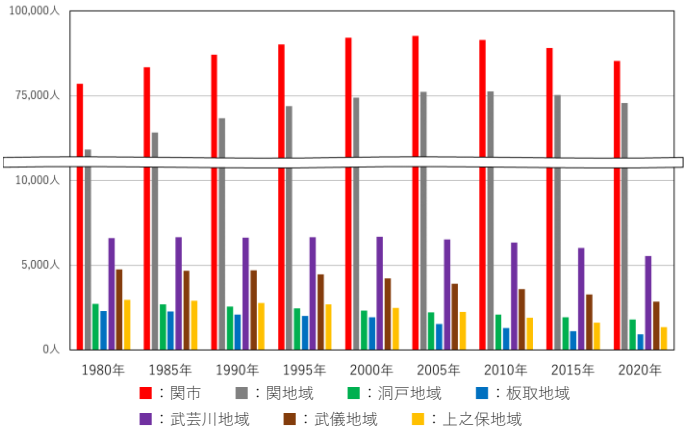

図2．関市並びに各地域における人口

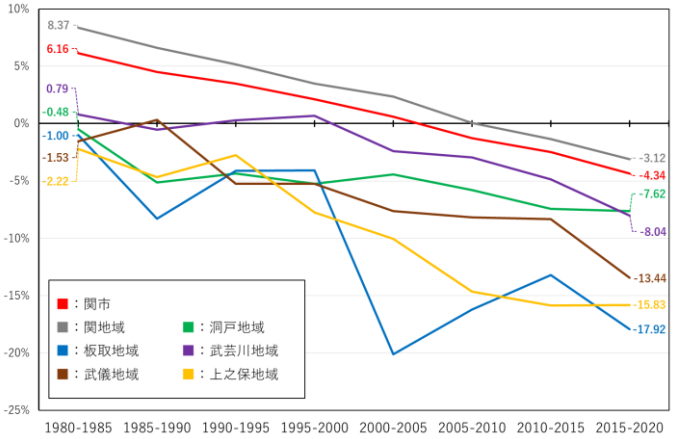

図3．関市並びに各地域における人口増加率

※1　合併後の市域に組み替えたもの

◆世帯

関市の一般世帯（※2）数は増加を続けており、1980年の19,622世帯から2020年には33,358世帯となった。一方、増加率は低下しており、2020年の増加率は1.93%となっている。

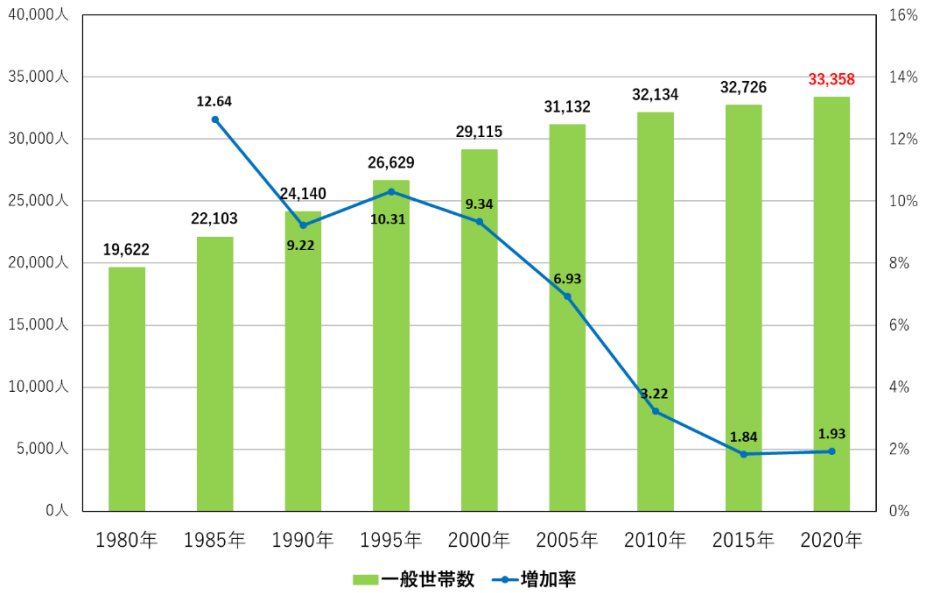

図4. 関市における一般世帯数と一般世帯増加率

一般世帯の種類ごとでも核家族世帯、単独世帯ともに増加しており、2020年には核家族世帯 19,565世帯、単独世帯 9，529世帯となっている。

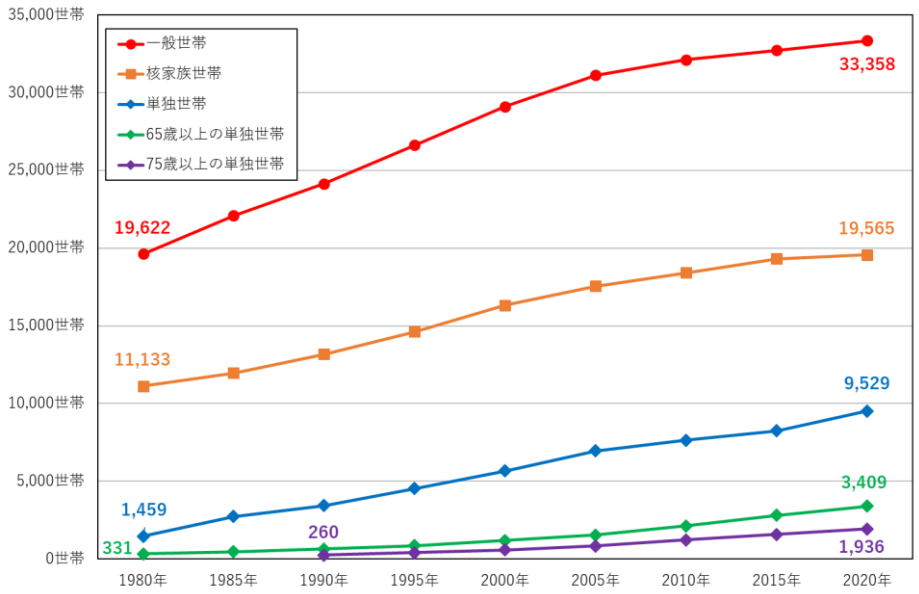

図5. 関市における一般世帯数と各世帯数

※2　学校の寮・寄宿舎の学生・生徒、病院・療養所などの入院者、社会施設の入所者、自衛隊の営舎内・艦船内居住者、矯正施設の入所者などから成る世帯以外の世帯。

◆年齢別人口

2020年の関市の人口を年齢3区分別にみると、0～14歳（年少人口）が10,487人、15～64歳（生産年齢人口）が47,961人、65歳以上（老年人口）が25,999人となり、老年人口が年少人口を上回っている。関市では2000年以降老年人口が年少人口を上回っている状態が続いている。また、後期高齢者と呼ばれる75歳以上の人口割合も増加しており、1980年には4%ほどであったが、2020年ではおよそ15%の割合を占めている。

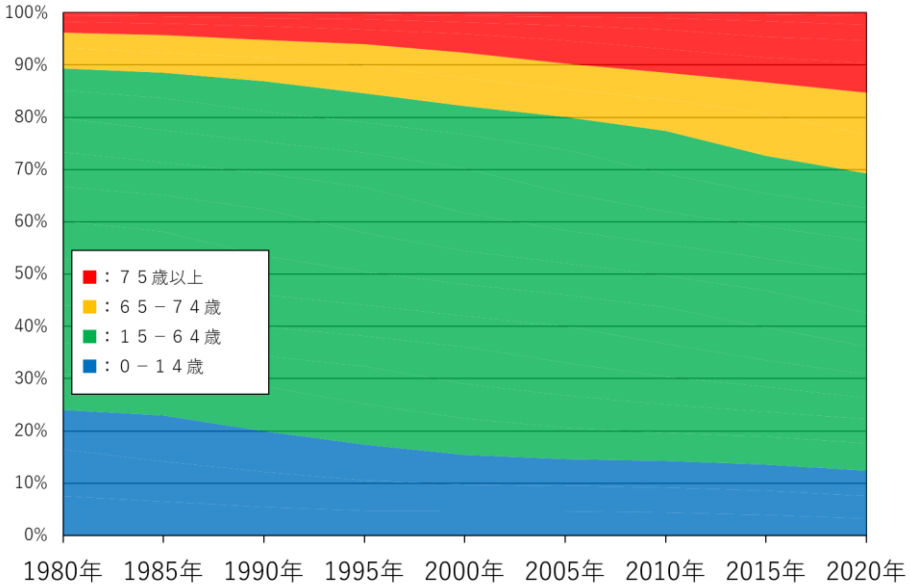

図6．関市における年齢3区分別人口割合

地域ごとに人口を年齢3区分別でみると、地域における高齢化の進行が見て取れる。特に、洞戸、板取、武儀、上之保地域で老年人口の割合が高くなっている。2020年時点で洞戸、武儀地域で40%以上、板取、上之保地域では50%以上が65歳以上となっている。

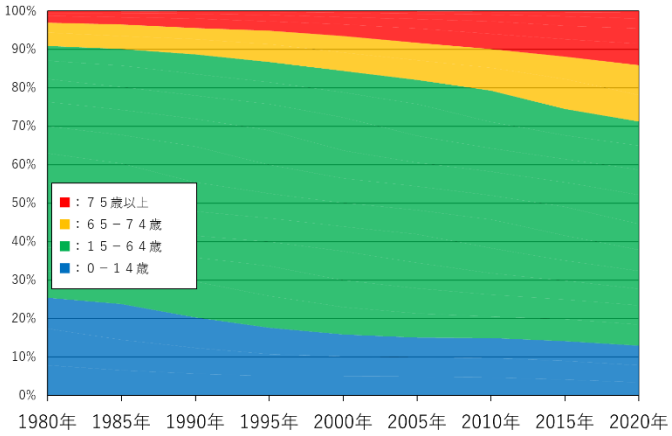

図7．関地域における年齢3区分別人口割合

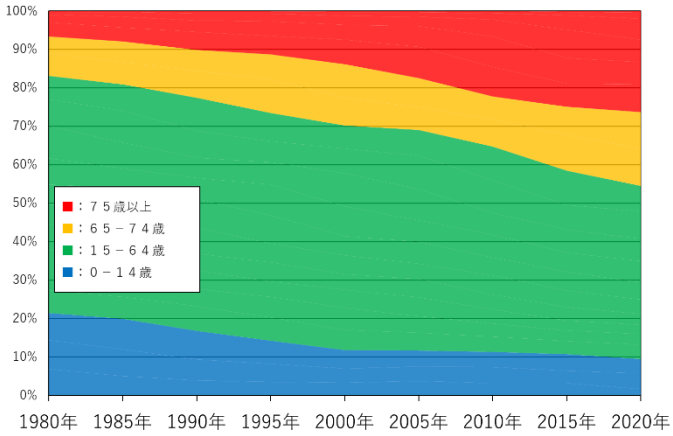

図8．洞戸地域における年齢3区分別人口割合

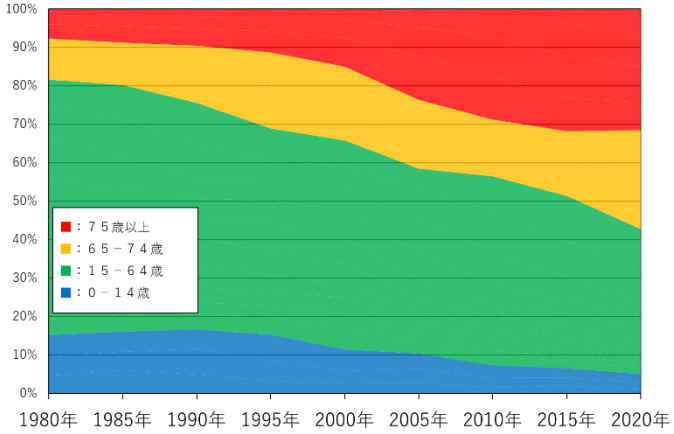

図9．板取地域における年齢3区分別人口割合

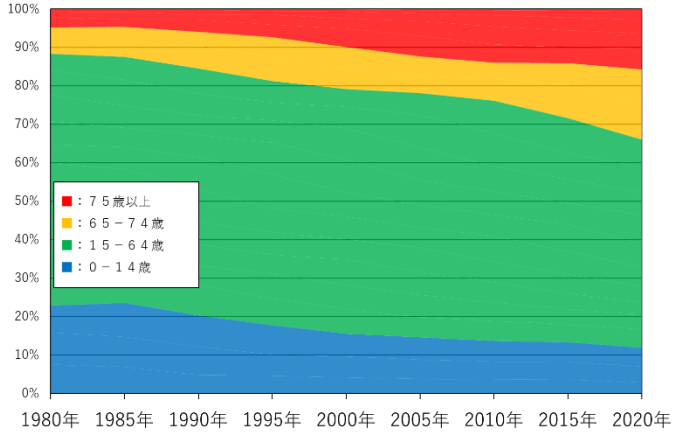

図10．武芸川地域における年齢3区分別人口割合

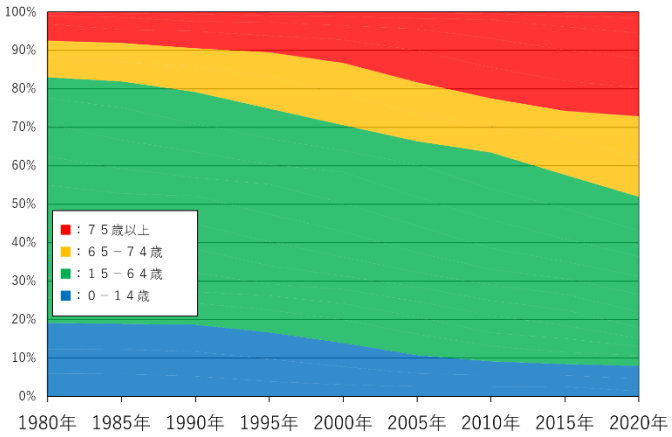

図11．武儀地域における年齢3区分別人口割合

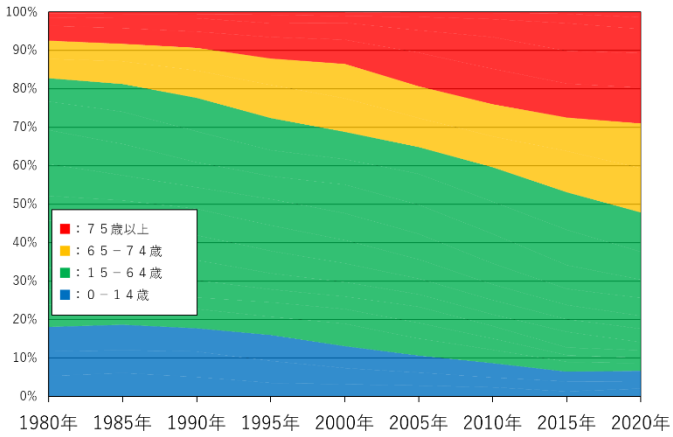

図12．上之保地域における年齢3区分別人口割合

◆高齢者世帯

高齢者のいる世帯について、1980年には33.58%だった65歳以上の親族のいる世帯は、2020年には48.19%となっている。また高齢者の単独世帯も増えており、2020年時点で65歳以上の単独世帯が10.22%、75歳以上の単独世帯が5.80%となっている。

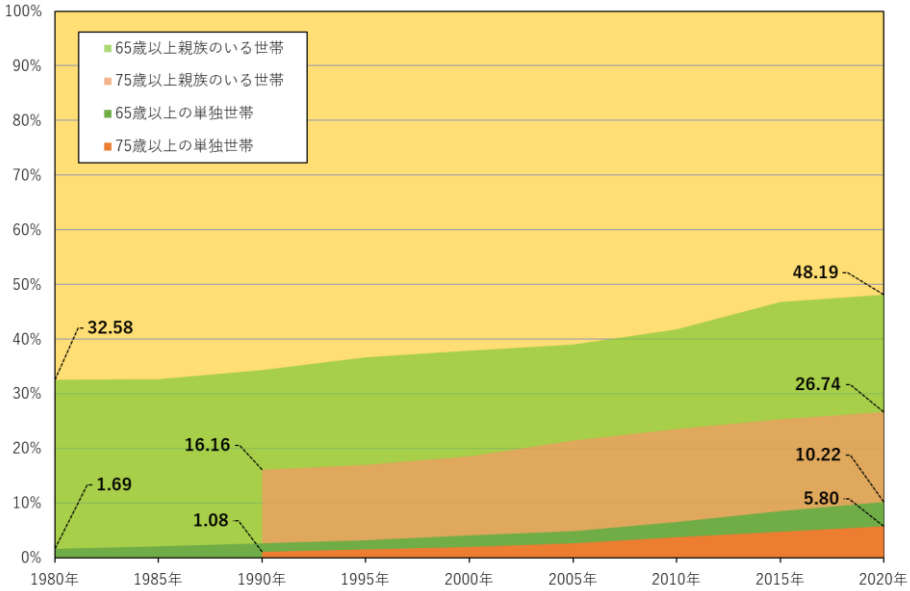

図13. 関市の一般世帯における高齢の親族がいる世帯と高齢者の単独世帯の割合